

養成医かわら版

NEWSLETTER



朝来医療センター

自己紹介/指導医

名 前：河野誠司

勤務先：公立朝来医療センター

診療科；リウマチ科



【略歴と自己紹介】

宮崎県東臼杵郡門川町出身。宮崎県立延岡西高校を卒業し、1980年4月神戸大学医学部入学。在学中は、野球部所属、ポジションは捕手。1986年3月に神戸大学医学部卒業後、奈良県天理よろづ相談所病院にてレジデント研修。神戸大学医学部臨床検査医学講座大学院生、天理よろづ相談所病院医員ののち、米国カリフォルニア大学ロサンゼルス校留学などを経て、2002年9月神戸大学医学部に助手入職。神戸大学医学部では、同附属病院講師・検査部長、同医学教育分野長、同総合臨床教育センター長・特命教授、次世代国際交流センター長などを経て、2025年3月定年退職。2025年4月より朝来医療センター病院長着任。神戸大学在職中は、附属病院検査部運営、膠原病リウマチ内科や検査部の若手の研究指導、卒前・卒後の医学教育全般を担当しながら、入職から退職までの23年間膠原病リウマチ内来にて外来診療（2016年からは県立柏原病院・丹波医療センターの免疫内科外来診療も担当）。私の地域医療とのかかわりは、2014年4月に神戸大学医学部に地域医療活性化センターが開設されて以来、卒前の地域医療教育活動や、同センター内の臨床基本技術トレーニングセンター長として、兵庫県養成医を主な対象とした地域医師のための超音波、侵襲的手技、上部内視鏡の講習会などの運営を通じて、兵庫県養成医・医学生の方々と兵庫県養成医OBの先生方と交流を持って来ました。



朝来市の市章

【公立朝来医療センターについて】

公立朝来医療センターは、豊岡市と朝来市が共同で運営している公立豊岡病院組合立の4病院（豊岡病院、出石医療センター、日高クリニック、本センター）の一つで、朝来市の唯一の公立病院として南但馬地域の地域医療を担っています。朝来市（人口2万5688人、面積403.06km²）は但馬地域の南部に位置しており、周囲を東は福知山市（京都府）・丹波市、西は養父市・宍粟市、南は神河町、北は豊岡市に囲まれた山間部の自治体です。観光スポットとして“天空の城”竹田城や織豊政権や江戸幕府の財布を支えた生野銀山跡が有名です。病院前の道路に出ると、夜にはライトアップした竹田城が見えます。地元の特産としては、日本農業遺産に指定された岩津ネギ栽培があります。

病院の立地は、北近畿豊岡自動車道と播但自動車道が交差する和田山ICを降りて北へ車で5分のところで、和田山地区の田園地帯にあります。病院から神戸までは車で1時間半、姫路まで1時間、豊岡まで40分の距離です。

公立朝来医療センターの建物は、写真のように4階建ての独特の周囲から良く目立つ外観をしています。病院は建築されてから9年でまだ新しく、病院の中は各診療セクションとも広々として、病棟も大変採光がよく明るい雰囲気ゆったりの病院です。病院の概要は、病床数149床で、職員数は約150名です。常勤医は、内科5名・整形外科3名の計8名で、入院診療科はおもに内科と整形外科で、外来・救急・地域紹介から入院の患者さんと公立豊岡病院からの転院患者さんが中心です。外来は応援医師を含めて、内科（総合診療科、リウマチ科、消化器科、循環器科、呼吸器科、糖尿病科）、整形外科、産婦人科、外科、泌尿器科、心臓血管外科、皮膚科を開設しています。救急は24時間対応で、1次～2次救急を担当しています。朝来地区の地域医療は、昭和60年代から兵庫県養成医が支えてきました。



岩津ネギ



竹田城



生野銀山

【ひとこと】

本センターには、2016年5月の開設以来、現在の5名を含めて、これまで延べ33名の兵庫県養成医が内科・整形外科で活躍して来ました。私は個人的に地域密着型のへき地の病院は、内科と整形外科の患者数が多く、基本となる診療科だと思ってきました。朝来医療センターはまさにそういう病院で、朝来地域の医療の屋台骨を支えていると思います。私の仕事は、地域の人々に親しまれる利便性の高い病院にしていくことですが、その一方で兵庫県養成医をはじめとした若い先生方を支えて、この病院に赴任してきたことが有意義な経験としてその後の医師人生に生きるようにサポートしていくことです。

まだ赴任して4か月余りですが、大変やりがいを感じています。TTCにも参加しています。